

鹿大大学院  
隅田教授ら

### 糖鎖研究技術で検査チップ開発

# ベンチャー企業設立

鹿児島大学大学院理工学研究科の隅田泰生教授(ナノ構造先端材料工学)らの研究チームはこのほど、細胞の表面にある「糖鎖」を金属に固定した「シユガーチップ」でタンパク質などを解析する技術

を事業化するためのベンチャー企業「ステックスパイオテック」(本社神戸市)を設立した。糖鎖は、糖質が鎖のようにつながったもの。細胞同士をつなぐなど重要な役割を持ち、次世代の研究分野として注目されている。

隅田教授らは、ガラス板上にコーティングした金の膜の表面に糖鎖を固定したシユガーチップを開発。このシユガーチップを、生体内で起るさまざまな分子間相互作用を電氣的に解析する分析装置に使用すれば、短時間で大量にウイルスやタンパク質を特定できるという。さらにシユガーチップを応用して「糖鎖固定化金ナノ粒子」も開発

する。隅田教授は、数年以内には、インフルエンザを型だけでなく株の種類まで特定できるような検査診断技術を実用化したい」と話す。

同社は資本金二千二十五万円で、大学などの研究機関や製薬会社などにチップを販売するほか、受託研究などを行う。初年度は半期で三千万円、次年度は一億円の売上高を目指す。隅田教授は、数年以内には、インフルエンザを型だけでなく株の種類まで特定できるような検査診断技術を実用化したい」と話す。

糖鎖と結合する特定のタンパク質を、分析装置を使わず、目視で検出できる。同社は資本金二千二十五万円で、大学などの研究機関や製薬会社などにチップを販売するほか、受託研究などを行う。初年度は半期で三千万円、次年度は一億円の売上高を目指す。隅田教授は、数年以内には、インフルエンザを型だけでなく株の種類まで特定できるような検査診断技術を実用化したい」と話す。